

応用演習Ⅳ

科目ナンバリング SEM-402
必修 2単位

永島 昇太郎

1. 授業の概要(ねらい)

教職(保健体育科教育、校務分掌、特別活動など)および、運動指導(運動方法、指導法、コーチング)について、総合的に学び、保健体育教育やスポーツ指導において求められる実践力と教育・指導的視点の基礎を構築する。

【具体的内容】

- ・自己の専門とする運動種目についての運動プログラムの研究をすすめる。
- ・指導対象を設定した運動プログラムの作成と検証をする。
- ・教育・指導の現場でのフィールドワークを実施する。

2. 授業の到達目標

スポーツ・健康に関する専門分野の中から、学生自身で課題を見つけ出し、主体的に学び考え、友人との討論等による意見を取り入れて問題を解決する能力やプレゼンテーション能力を身につける。

3. 成績評価の方法および基準

- ・適切な学習課題の設定:15%
- ・情報の収集:15%
- ・整理・分析:15%
- ・積極的なグループ討論・プレゼンテーション:15%
- ・英語・外国語の読解:15%
- ・研究紀要の作成・研究発表:25%

4. 教科書・参考文献

教科書

テキスト:必要に応じ資料を配布

参考文献

(文部科学省) 『中学校学習指導要領解説保健体育編』
(文部科学省) 『高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編』
『公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』

5. 準備学修の内容

- ・自己の経験や実践してきたスポーツ活動について振り返り考察する。
- ・将来を見据えて、運動実践者としての自己の役割を積極的に行う。
- ・スポーツ・教育に関する情報・問題を日常的にメディア等でチェックする。

6. その他履修上の注意事項

初・中等教育・特別支援教育における学校教育について、教科「保健体育」、部活指導、特別活動、校務分掌と多岐にわたり研究を進めるとともに、スポーツ・運動について、効果的な教育・指導と教師・指導者の役割について扱い、社会に求められる体育・スポーツの教育的・指導的立場のあり方を研究・実践をすることから、行動力のある人材を求める。

更に、これらの内容については継続性・関連性をもたせるために、実習・実務の機会を設け、学生自身が企画・運営の経験に携わることから、個々の役割に対する責任を十分に果たし、お互いに協力しあえる人材を求める。

進路選択については「教職」のみを対象者とせず、一般就労、進学を希望する者を受け入れるが、いずれにせよ卒業年次に大学生活の総括をする「卒業研究」に取り組むことを必須とする。

なお、健康に係る指導・教育をする内容が主であることから、不健康な生活や行動の習慣がある者、特に喫煙者については、応募を慎まれたし。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス、ライフスキル
- 【第2回】 文献・資料調査方法
- 【第3回】 教材研究の方法
- 【第4回】 キッズスポーツ理論
- 【第5回】 パラスポーツ理論
- 【第6回】 スポーツプログラム作成(キッズスポーツ、パラスポーツ)
- 【第7回】 スポーツプログラム指導実践(キッズスポーツ、パラスポーツ)
- 【第8回】 スポーツイベントの研究
- 【第9回】 安全指導・応急手当の理論
- 【第10回】 体育・健康教育およびスポーツ指導者のスキル研究
- 【第11回】 運動指導プログラムの企画・立案
- 【第12回】 研究の進め方・論文の書き方
- 【第13回】 コミュニケーションスキル
- 【第14回】 自己理解
- 【第15回】 前期総合ディスカッション・研究発表